

吉野川を釣る！



(新町川下流域末広大橋)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに300種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。現在51種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？



今回は、徳島市市街地を流れる新町川、助任川、沖洲川などを彷徨ってきましたので、そのご紹介をします。

新種の釣果を得ることが大変難しくなって来たので、今まであまり本気で攻めていなかった新しい場所・シチュエーションを求めて、宿舍の近くの徳島市街地河川に狙いを決めました。

ただ、駐車する場所があまりないため、いつもの愛チャリに道具を積み込んで出発です。

当然、大物を狙えるわけもなく、最近よく使っている小物タックルと極小ジグ、ワームで狙っていくことにしました。まずは、沖洲川を狙います。



沖洲川



沖洲川にある船着き場の捨て石

自転車で左上の写真のような箇所を彷徨いながら、魚が見えるところを打っていきます。ここでは、ジグヘッド単体+ワームで探っていると右上の写真のような捨て石が崩れているような箇所で当たりが出ました。

「ウロハゼ」【再掲】です。石の間を縫うようにワームをダートさせると岩の間から、まるで弾丸のように飛び出して来ます。

今までは、飛び出してくるところが見えない釣り方だったのですが、この方法ではルアーに襲いかってくる様子が丸見えで、とても興奮しました。また、数も伸び、このポイントだけで10匹程釣ることが出来ました。サイズも良く(20cm程度)なかなか面白い時間を過ごすことが出来ました。

続いて、岩の近くの砂地の部分を狙うとこちらでも定番の「マハゼ」【再掲】が、釣れました。こちらは、いるのが見えるのでほぼ見釣りで、喰い付いても針が口の中になかなか入らずこれはこれで面白かったです。

こちらでも、見える範囲を釣ると数匹釣れ、見えないところも探るとまあ面白い釣りになりそうです。今回は、新種狙いなので、そこそこして次を狙います

次は、護岸のカキがついているところを狙ってみました。するとカキ殻の際から飛び出してきたのが「タケノコメバル」【再掲】です。

2匹釣れましたが、新種は出ません。そこで、大きくポイントを変え、新しいシチュエーションを探すことにしました。



古代魚みたいでカッコイイ「ウロハゼ」【再掲】



秋の定番「マハゼ」【再掲】



大きいのが居ない「タケノコメバル」【再掲】

次は、助任川の親水公園です。水中を見てみると、数種類のハゼ類が見えます。茶色いハゼは、見向きもしませんが、シマシマのハゼは、少しは興味を示してくれます。ワームを引きちぎって少しずつ小さくし反応を見ます。

すると、2cmくらいまで小さくするとやっと口に入り釣ることが出来ました。

「アカオビシマハゼ」です。下の写真は、同じ種類なのですが、興奮すると色が瞬時に変化するように、水槽に入れると30秒ほどで右下のように元に戻りました。



助任川の階段護岸



7cmほどのアカオビシマハゼ（驚いたとき）



アカオビシマハゼ（通常時）



続いて、ルアーをとっかえひっかえして茶色のハゼを狙いますが、釣れるのはアカオビシマハゼばかり。そのうちスレてしまったので、下の写真のように大岡川、沖洲川、助任川等をいろいろ探ってみました。

橋の下にスズキ、クロダイが数多く居ましたが、今回のタックルでは、そんな大きな魚は釣れないので、狙うこともできず釣れませんし、シマイサキは、ルアーを投げると逃げる始末で釣れず。その日は終了となりました。



大岡川



沖洲川

続いて、冬の新町川河口部の夜釣りをご紹介します。

釣友より新町川の河口部でメバルがプラグで釣れるパターンがあると聞きました。釣友の情報によるとワームではなく、サスペンドタイプのプラグにしか反応しないメバルがいるそうで、とても興味を惹かれサスペンドタイプのルアーを用意して、河口部へ行ってみました。

しかし、釣り方が良くわからず、プラグでは当たりを得られません。

取り敢えず、ジグ単※ワームで探ってみると、夕方は小さいサイズのメバルとカサゴが釣れ、夜は18～24cmの良いサイズの「シロメバル」がポツポツ釣れました。

※ジグ単：他のオモリを使わないジグヘッドにワームを付けたもの。



20 cmオーバーのシロメバル

ここで唐突ですが、メバルの料理コーナーです。

メバル料理は、説明するまでもなく煮つけが定番ですが、25 cmを超えるものは、刺身が最高です。しかし、25 cmを超えるようなサイズがいつも釣れるとは限らず、やはり煮つけが定番となっていますが、春・冬のメバルシーズンには、沢山釣れるのですぐに飽きてしまいます。

そこで塩焼きの出番です。とてもおいしいので、煮付けに飽きた際には、是非試してみてください。



ド定番のメバルの煮付け



あっさりしていてとても美味しい塩焼き

続いては、沖洲川の夜釣りです。

夜行性のハゼ（ドンコ、カワアナゴ等）を狙おうと、近所の沖洲川を探ってみました。

狙い方は、懐中電灯で照らし魚を探して、ワームでその魚を狙うというものです。懐中電灯で照らしてみると、まず「ウロハゼ」が数匹見えます。ワームを口のところへ持っていくと、7割くらいの確率でパクリと啜ってくれます。数匹釣ったところで他を探すと「マハゼ」が居ました。こちらは、3割くらいの確率でヒットします。



「ウロハゼ」【再掲】のバス持ち

更に他の場所を懐中電灯で探すと、今度はゴンズイがいましたが、この魚は全然反応しません。

諦めて、船のクッション用のタイヤが設置されたところを照らすと、タイヤと波止の隙間に新種のダイナンギンポ（投げ釣りでは何度か釣っていた。）がいました！

口のところにワームを持っていくと1、2度カツカツと当たりますが、ヒットしません。また、穴の中に居るので、その日のエステル0.5号のタックルでは取り込めそうもなかったので、後日、穴釣り用タックルに変更して再チャレンジしました。



海蛇のようなウツボのような「ダイナンギンポ」



1週間後、居なくなっていないか心配しながら、恐る恐る同じ場所をのぞき込んでみると、まだ居っていました。また懐中電灯で照らしながら慎重に口のところにワームを近づけ口の近くでワームをシェイクします。カツカツ当たりますが、口が小さいせいなかなかヒットしません。それでも何度もシェイクしているとようやくヒットしました。

穴から引き摺り出すと、24cmの立派な「ダイナンギンポ」でした。後でラインを確認するとザラザラになっていて、「2.5号の穴釣りタックルで良かったなあ～」と思いました。

今回は、生命力が強かったので写真撮影のあとリリースしましたが、Webで調べてみると非常に美味しい魚ということが分かり、料理してみればよかったと、今更ながら後悔しました。

見た目はグロテスクですが、3枚に卸して天ぷらにすると絶品らしいです。

ただ、関東で高級魚のニシギンポ科のギンポとカウエガジ科のダイナンギンポを混同している人が多いため、定かではありませんが！ 皆さんも、是非ご賞味あれ・・・・・・・・



横から見てもやっぱり不気味。味が絶品とは思えない。





今回は、市街地河川特集でした。このような市街地の河川でも、いろいろな種類の魚が潜んでいるものです。
徳島市街地河川は、昭和の後半には、水質悪化が進み釣りをしてみようという感じではなかったのですが、現在では、水質・水色・景観も相当改善され、なかなか面白い釣り場となっています。皆さんも良くなった環境で釣りを楽しんでみてください。

今回、3魚種ゲット。通算54魚種となりました。次はどこで何を狙おうかな？

釣り人Nのお魚紹介コーナー



今回釣った
お魚うんちく

<アカオビシマハゼうんちく>

ススキ目 ハゼ亜目 ハゼ科 チチブ属 アカオビシマハゼ

棲んでいるところ: 淡水魚? 朝鮮半島、中国沿岸部、琉球列島を除く日本各地。沿岸部、内湾など

大きさ: 全長8~11cm程度。

食べているもの: 甲殻類、小魚、無脊椎動物。

食べ方: 普通は食用にすることはない。旬は?

・よく似た種類にシモフリシマハゼがいる。

<シロメバルうんちく>

ススキ目 カサゴ亜目 メバル科 メバル属 シロメバル

棲んでいるところ: 海水魚 青森県~九州西岸の黒潮の当たらないところ。沿岸の岩礁域

大きさ: 最大で30cmを超える。

食べているもの: 甲殻類、軟体動物、多毛類、小型魚類。

食べ方: 煮つけ、塩焼き、から揚げ、25cm以上は、刺身が最高。旬は冬から春(産卵期除く)

・20世紀の初めから100年に渡って何種にも分けられたり1種となったりしていたが、2009年よりアカ・クロ・シロの3種に分けられています。

<ダイナンギンポうんちく>

ススキ目 ゲンゲ亜目 タウエガジ科 ダイナンギンポ属 ダイナンギンポ

棲んでいるところ: 海水魚 北海道~長崎県の岩礁帯の潮間帯。

大きさ: 30cm近くになる。

食べているもの: 甲殻類やゴカイなどを食べる。

食べ方: 天ぷらが美味しいらしい。旬は?

・よく似た名前・姿のギンポは、科違いの関東の高級魚